

令和7年度保険者機能強化推進交付金(市町村分)評価指標に係る該当状況調査票

資料 4 - ①

目標Ⅰ 持続可能な地域のあるべき姿をかたちにする(配点100点)

64 点

(ⅰ)体制・取組指標群(配点64点)

指 標			時点	回答欄	得点	記載欄	
1	地域の介護保険事業の特徴を把握しているか。 ※ウに該当する場合はイに、エに該当する場合は、ア又はイのいずれかに該当していることが望ましい	ア 「地域包括ケア「見える化」システム」を活用し、サービス資源や給付費等の現状把握・分析等を行っている		2024年度実施 （予定を含む） の状況の評価	○	4 点	ア ①次期計画の保険料設定に向けた各種現状分析。認定率や高齢化率、平均年齢、調整済み認定率 等 ②全国・県平均、近隣中核市（船橋市）等と経年変化の分析を随時行う ③全国、千葉県と比較して、認定率・高齢化率ともに低くなっている。近隣の市町村と比較して、高齢化率は比較的高く、認定率は低い。調整済み認定率は低いが、今後高齢者の高齢化が進んでいく中で、維持していけるかが課題となっている。 ④調整済み認定率が低いことについては、フレイル予防に力を入れ取り組んでいることが理由のひとつと考える。 ウ パンフレットの配布・ホームページへの掲載（かんたん手引き、シニアはつらつガイドブック、みんなでささえる介護保険） エ 柏市高齢者いきいきプランれに具体的な取り組み等を記載、小圏域ごとにホームページにて現状分析を公表している
		イ 日常生活圏域別の特徴を把握・整理している			○	4 点	
		ウ 地域の介護保険事業の特徴を踏まえ、相談窓口やサービスの種類・内容、利用手続などについて、住民に周知を行っている			○	4 点	
		エ 地域の介護保険事業の特徴を公表している			○	4 点	
2	介護保険事業計画の進捗状況（介護サービス見込量の計画値と実績値の乖離状況）を分析しているか。 ※ア→イ→ウ→エの順で該当していることが望ましい	ア 毎年度、計画値と実績値の乖離状況について、モニタリングを行っている		2024年度実施 （予定を含む） の状況の評価	○	4 点	ア 例年、年度末後に、計画値に対する実績の評価を各事業ごとに行い、柏市健康福祉審議会高齢者健康福祉専門分科会にて議題として報告している（令和6年8月29日に実施） ウ アと同時に次年度以降の事業の方向性についても検討を行っている。 エ 柏市健康福祉審議会高齢者健康福祉専門分科会の資料・議事録を公表している。 ホームページURL：https://www.city.kashiwa.lg.jp/shiseijoho/council/kaisaijokyo/fukushi/koreishafukushi/index.html
		イ モニタリングの結果を外部の関係者と共有し、乖離の要因やその対応策について、外部の関係者を含む議論の場で検証を行っている			○	4 点	
		ウ モニタリングの結果やイの検証を踏まえ、サービス提供体制について必要な見直しを行っている			○	4 点	
		エ モニタリングの結果を公表している			○	4 点	
	自立支援、重度化防止等に関する施策について、実施状況を把握し、必要な改善を行っているか。 ※ア→イ→ウ→エの順で該当していることが望ましい	ア 毎年度、次の施策分野ごとに事業の実施状況を定量的に把握し、データとして整理・分析している	① 介護予防・生活支援サービス	2024年度実施 （予定を含む） の状況の評価	○	1 点	ア①サービス類型ごとに利用状況、生活支援サービス（訪問B）団体数（補助金受給団体） ②フレイルチェック受講者数、出前講座受講者数、登録団体数、ハイリスク者支援実績 ③認知症サポーター養成講座受講者数、かしわ認知症対応ガイドブック配布数、通いの場の数、認知症初期集中支援チーム数、認知症カフェ参加者満足度、地域包括支援センターにおける認知症相談件数（延べ） ④在宅医療・介護推進事業に係るデータ（※）を整理。 イ①生活支援サービス利用件数、生活支援サービス（訪問B）団体数、活動者数 ②成果目標：フレイルを知っている人の割合（健康とくらしの調査） 活動目標：フレイルチェック受講者数、出前講座受講者数、登録団体数、ハイリスク者支援実績 ③成果目標：認知症の相談先を知っている人の割合（健康とくらしの調査） 活動目標：認知症サポーター養成講座受講者数、かしわ認知症対応ガイドブック配布数、通いの場の数、認知症初期集中支援チーム数、認知症カフェ参加者満足度、地域包括支援センターにおける認知症相談件数（延べ） ④第9期いきいきプラン21～柏市地域包括ケア計画～にて在宅医療・介護連携の推進における指標（在宅医療を受けている人の満足度）を掲載。 ウ①訪問相当サービス、通所相当サービス伸び率が高いため、サービス・活動A、Bの活用や生活支援体制整備事業を通してインフォーマルサービス等の資源の把握、マッチングを広げていく。 ②フレイル予防の普及啓発、通いの場やサロン等、地域への波及。 地域の状況に応じた事業実施の推進。
			② 一般介護予防事業		○	1 点	
			③ 認知症総合支援		○	1 点	
			④ 在宅医療・介護連携		○	1 点	
		イ 次の施策分野ごとに事業の効果を検証するための評価指標を定めている	① 介護予防・生活支援サービス		○	1 点	
			② 一般介護予防事業		○	1 点	
			③ 認知症総合支援		○	1 点	

3		ウ	イの指標に対する実績等を踏まえ、毎年度、次の施策分野ごとに課題の分析、改善・見直し等を行っている	④ 在宅医療・介護連携	○	1 点	③認知症の正しい理解の普及啓発、予防、医療・ケア・介護サービス・介護者への支援、認知症バリアフリーの推進。柏市介護支援専門員協議会や柏市介護サービス事業者協議会等の関係団体への周知。 ④柏市在宅医療・介護多職種連携協議会や柏市高齢者健康福祉専門分科会にて、データ、成果を公表し、在宅医療・介護の関係者や学識経験者等からご意見をいただき、施策改善に努めている。
				① 介護予防・生活支援サービス	○	1 点	エ①介護保険事業計画の評価結果に合わせてホームページにて行う。 ②介護保険事業計画の評価結果に合わせてホームページにて行う。 ③介護保険事業計画の評価結果に合わせてホームページにて行う。 ④柏市在宅医療・介護多職種連携協議会や柏市高齢者健康福祉専門分科会にて、データ、成果を公表し、在宅医療・介護の関係者や学識経験者等からご意見をいただき、施策改善に努めている。
				② 一般介護予防事業	○	1 点	
				③ 認知症総合支援	○	1 点	
		エ	次の施策分野ごとにイの指標の達成状況を含む取組の成果を公表している	④ 在宅医療・介護連携	○	1 点	※在宅医療・介護連携に係るデータ（第9期いきいきプランに準じたものを抜粋） 顔の見える関係会議…開催回数、参加者数 情報共有システム運用・管理…ID登録保有者数、ID登録事業所数、新規部屋開設数、通算開設数 在宅医療推進のための多職種連携研修会…開催回数、参加者数、参加医師数 病院と在宅との連携強化研修会…開催回数、参加者数 訪問看護ステーション基盤強化…常勤換算数 看取り体制構築に対する支援…看取りを行う施設数 在宅医療啓発事業…市民啓発実施回数、市民啓発参加人数、在宅医療情報誌（わがや）発行数 在宅医療相談…相談数、レビュー開催数 等
				① 介護予防・生活支援サービス	○	1 点	
				② 一般介護予防事業	○	1 点	
				③ 認知症総合支援	○	1 点	
4	保険者機能強化推進交付金等に係る評価結果を関係者間で共有し、自立支援、重度化防止等に関する施策の遂行に活用しているか。 ※イ及びウに該当する場合はアに該当していることが望ましい	ア	年に1回以上、評価結果を庁内の関係者間で説明・共有する場がある	2024年度実施（予定を含む）の状況の評価	○	4 点	ア 柏市健康福祉審議会高齢者健康福祉専門分科会にて議題として報告予定（令和7年2月6日開催予定） イ 大学、医師会、歯科医師会、薬剤師会、老人福祉施設連絡協議会、介護サービス事業者協議会、地域包括支援センター運営協議会、民生委員児童委員協議会、介護支援専門員協議会より、分科会の委員として出席 ウ アの分科会で出た意見については、その分科会内に全ての関係者が参加しており、意見への回答や今後の方向性についても回答している。 エ 柏市ホームページURL：https://www.city.kashiwa.lg.jp/shiseijoho/council/kaisaijokyo/fukushi/koreishafukushi/index.html
		イ	アの場には、庁内のみならず、外部の関係者が参画している		○	4 点	
		ウ	アの場における意見を、施策の改善・見直し等に活用している		○	4 点	
		エ	市町村において全ての評価結果を公表している		○	4 点	

(ⅱ)活動指標群(配点36点)

1	今年度の評価得点	ア 上位7割	2024年度実績 を評価			
		イ 上位5割				
		ウ 上位3割				
		エ 上位1割				
2	後期高齢者数と給付費の伸び率の比較	ア 上位7割	2017年→ 2023年の伸び率			
		イ 上位5割				
		ウ 上位3割				
		エ 上位1割				
3	PFS（成果連動型民間委託契約方式）による委託事業数	ア 上位7割	2023年度実績 を評価			委託事業数を記載。※単位の記載は不要 0
		イ 上位5割				
		ウ 上位3割				
		エ 上位1割				

目標Ⅱ 公正・公平な給付を行う体制を構築する(配点100点)

52 点

(Ⅰ)体制・取組指標群(配点68点)

指 標			時点	回答欄	得点	記載欄
1	介護給付費の適正化に向けた方策を策定しているか。 ※ア→イ→ウ→エの順で該当していることが望ましい	ア 地域のサービス資源や給付費等の動向を把握し、他の地域とも比較・分析の上、介護給付費の適正化方策を策定している	2024年度実施 (予定を含む) の状況を評価	×	0 点	イ・ウ 第9期柏市高齢者いきいきプラン2.1に評価指標等の記載をしている エ 柏市健康福祉審議会高齢者健康福祉専門分科会にて議題・報告事項として報告している（令和6年8月29日）
		イ 介護給付費の適正化方策に基づく取組の効果を検証するための評価指標を定めている		○	8 点	
		ウ イの指標に対する実績等を踏まえ、毎年度、取組の課題の分析、改善・見直し等を行っている		○	8 点	
		エ イの指標の達成状況を含む取組の成果を公表している		○	8 点	

2	介護給付費適正化事業を効果的に実施しているか。	ア 3事業の全てを実施している		2024年度実施 (予定を含む) の状況を評価	○	6 点	① 3事業のうち実施している事業を記載。＜選択式＞			
							☐	要介護認定の適正化		
							☐	ケアプラン等の点検		
							☐	縦覧点検・医療情報との突合		
		イ 縦覧点検10帳票のうち、効果が高いと期待される4帳票をいくつ点検しているか		2024年度実施 (予定を含む) の状況を評価	○	2 点	② 「縦覧点検10帳票のうち、効果が高いと期待される4帳票」のうち実施している帳票を記載。＜選択式＞			
							☐	① 居宅介護支援請求におけるサービス実施状況一覧表		
							☐	② 重複請求縦覧チェック一覧表		
							☐	③ 算定期間回数制限縦覧チェック一覧表		
							☐	④ 単独請求明細書における準受付審査チェック一覧表		
		ウ ケアプラン点検の実施に当たって、有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅の入居者に係るものも含めている		2024年度実施 (予定を含む) の状況を評価	○	8 点	ウ 本市のケアプラン点検の取り組み（ケアプラン向上プロジェクト及び給付適正化システムを用いた点検）において、高齢者向け住宅のプランは排除していない。 オ 福祉用具購入においては福祉用具専門相談員、住宅改修においては住環境コーディネーターの有資格者による申請書点検を行っているほか、市単独事業の住宅改造費補助制度と介護保険住宅改修を併用する場合は市の委託する建築士による訪問及び工事指示書の作成を行っている。			
		エ 福祉用具の貸与後に、リハビリテーション専門職等が用具の適切な利用がなされているかどうかを点検する仕組みがある							×	0 点
		オ 福祉用具購入費・住宅改修費の申請内容について、リハビリテーション専門職等がその妥当性を検討する仕組みがある							○	8 点

(Ⅱ)活動指標群(配点32点)

1	ケアプラン点検の実施割合	ア 上位7割	2023年度実績 を評価			ケアプラン点検数を記載。※単位の記載は不要
		イ 上位5割				
		ウ 上位3割				
		エ 上位1割				

2	医療情報との実合の実施割合	ア 上位 7 割	2023年度実績 を評価			1436	①実際の点検件数
		イ 上位 5 割				6921	②出力件数
		ウ 上位 3 割				20.7%	←自動計算（単位：％）
		エ 上位 1 割					※①・②ともに単位の記載は不要

目標Ⅲ 介護人材の確保その他のサービス提供基盤の整備を推進する(配点100点)

34 点

(ⅰ)体制・取組指標群(配点64点)

指 標			時点	回答欄	得点	記載欄
1	地域における介護人材の確保・定着のため、都道府県等と連携しつつ、必要な取組を実施しているか。 ※エに該当する場合はイ又はウのいずれかに該当していることが望ましい	ア 地域における介護人材の現状や課題を把握し、これを都道府県や関係団体と共有している	2024年度実施 (予定を含む) の状況の評価	×	0 点	イ 事業者団体（柏市介護サービス事業者協議会）と共催で合同就職相談会の開催を予定している。また、事業者団体（柏市老人福祉施設連絡協議会）と共催で介護職員と学生向けの研修・交流会の開催を予定している。 ウ 介護支援専門員の処遇改善を行うため補助金を交付している。また、介護職員初任者研修・介護福祉士実務者研修の受講費用等の全額の助成を実施している。
		イ 都道府県や関係団体の取組と協働した取組を行っている		○	6 点	
		ウ 市町村としての独自事業を実施している		○	6 点	
		エ イ又はウの取組の成果を公表している		×	0 点	
		オ 地域における介護人材の将来的な必要数の推計を行い、これを公表している		×	0 点	

2	地域におけるサービス提供体制の確保や、自立支援・重度化防止、介護人材確保に関する施策等の推進に当たって、庁内・庁外における関係者との連携体制が確保されているか。 ※ウからオまでのいずれかに該当する場合はア及びイに該当していることが望ましい	ア 介護・福祉関係部局や医療、住まい、就労関係部局など、高齢者の自立支援・重度化防止等に向けた庁内の連携を確保するための場又は規程がある		2024年度実施 (予定を含む) の状況の評価	○	6 点	ア 柏市介護支援専門員協議会総務会、柏フレイル予防プロジェクト2025推進委員会（地区社協、ふるさと協議会連合会、社会福祉協議会、ウォーキングクラブ、柏市医師会、東京大学高齢社会総合研究機構等） イ ・柏市介護支援専門員協議会、認定栄養ケア・ステーション柏市連絡協議会、柏市歯科医師会、柏市在宅リハビリテーション連絡会、柏市グループホーム連絡会、認知症家族の会・業界団体（柏市介護サービス事業者協議会）に柏市も会員として属しており、連携を図っている。 ・重層的支援会議（小会議、中会議、大会議）を開催。小会議はケース個別の会議。中会議は市内を4エリアに分けて地域ごとの共通課題を共有・議論する会議。大会議は市域全体の福祉課題を共有・議論する会議として、市内地域包括支援センター、障害拠点、SSW等関係者、関係団体と協働している。 ウ ①自立支援・重度化防止に向けた個別の事例の課題解決を図るとともに、地域課題を共有し、地域づくりや資源開発につなげる。 ②柏フレイル予防プロジェクト2025推進委員会の実施や、医療職連携会議や各関係機関との情報共有を行い、通いの場やサロン等の活動や参加状況について把握や、フレイル予防に係る連携・調整等について協議している。 ③認知症の正しい理解の普及啓発、予防、医療・ケア・介護サービス・介護者への支援、認知症バリアフリーの推進を目的に「柏市認知症にやさしいまちづくり会議」において、事業の進捗を報告し、意見を聞いている。 ④1年に3回実施予定の柏市在宅医療・介護多職種連携協議会にて、協議を図っている。 また、協議会の委員には、在宅医療・介護に関わる者以外に、社会福祉協議会、ふるさと協議会、千葉県医師会、東京大学高齢社会総合研究機構、千葉大学医学部附属病院関係者が入っている。 ⑤事業者団体（柏市介護サービス事業者協議会）と共催で合同就職相談会の開催を予定している。
		イ 都道府県や事業者、関係団体、専門職等外部の関係者との連携を確保するための場がある			○	6 点	
		ウ ア及びイの連携体制を、次の施策分野ごとの取組に活用している	① 介護予防・生活支援サービス		○	2 点	
			② 一般介護予防事業		○	2 点	
			③ 認知症総合支援		○	2 点	
			④ 在宅医療・介護連携		○	2 点	
			⑤ 介護人材確保等		○	2 点	
		エ ア及びイによる連携体制を活用し、高齢者の住まいの確保と生活の一体的支援に関する取組を実施している			×	0 点	
		オ ア及びイによる連携体制を、重層的支援体制整備事業の実施や地域の誰もが参画できる場づくりなど、介護保険事業に留まらない地域づくりにも活用している			×	0 点	

(ii)活動指標群(配点36点)

1	高齢者人口当たりの地域住民に対する介護の仕事の魅力を伝達するための研修の修了者数	ア 上位 7 割	2023年度実績 を評価			研修の修了者数を記載。※単位の記載は不要
		イ 上位 5 割				0
		ウ 上位 3 割				
		エ 上位 1 割				
2	高齢者人口当たりの介護人材（介護支援専門員を除く。）の定着、資質向上を目的とした研修の修了者数	ア 上位 7 割	2023年度実績 を評価			研修の修了者数を記載。※※単位の記載は不要
		イ 上位 5 割				142
		ウ 上位 3 割				
		エ 上位 1 割				
3	介護支援専門員を対象としたケアマネジメントの質の向上に関する研修（介護支援専門員法定研修を除く。）の総実施日数	ア 上位 7 割	2023年度実績 を評価			研修の総実施日数を記載。※単位の記載は不要
		イ 上位 5 割				22
		ウ 上位 3 割				
		エ 上位 1 割				

目標Ⅳ 高齢者がその状況に応じて可能な限り自立した日常生活を営む(配点100点)

成果指標群

指 標				時点	回答欄	得点	記載欄
1	軽度【要介護１・２】 （平均要介護度の変化Ⅰ） 短期的な要介護認定者の平均要介護度の変化率の状況はどのようになっているか。	ア 変化率の状況	① 全保険者の上位 7 割	（ア）2023年 1 月→2024年 1 月 の変化率			
			② 全保険者の上位 5 割				
			③ 全保険者の上位 3 割				
			④ 全保険者の上位 1 割				
		イ 変化率の差	① 全保険者の上位 7 割	（イ）2023年 1 月→2024年 1 月と、 2022年 1 月→2023年 1 月 の変化率の差			
			② 全保険者の上位 5 割				
			③ 全保険者の上位 3 割				
			④ 全保険者の上位 1 割				
2	軽度【要介護１・２】 （平均要介護度の変化Ⅱ） 長期的な平均要介護度の変化率の状況はどのようになっているか。	ア 全保険者の上位 7 割	2020年1月 →2024年1月の 変化率				
		イ 全保険者の上位 5 割					
		ウ 全保険者の上位 3 割					
		エ 全保険者の上位 1 割					
3	中重度【要介護３～５】 （平均要介護度の変化Ⅰ） 短期的な要介護認定者の平均要介護度の変化率の状況はどのようになっているか。	ア 変化率の状況	① 全保険者の上位 7 割	（ア）2023年 1 月→2024年 1 月 の変化率			
			② 全保険者の上位 5 割				
			③ 全保険者の上位 3 割				
			④ 全保険者の上位 1 割				

		イ 変化率の差	① 全保険者の上位 7 割 ② 全保険者の上位 5 割 ③ 全保険者の上位 3 割 ④ 全保険者の上位 1 割	→2023年 1 月の 変化率の差			
4	中重度【要介護 3～5】 （平均要介護度の変化Ⅱ） 長期的な平均要介護度の変化率の状 況はどのようになっているか。	ア 全保険者の上位 7 割 イ 全保険者の上位 5 割 ウ 全保険者の上位 3 割 エ 全保険者の上位 1 割		2020年1月 →2024年1月の 変化率			
5	健康寿命延伸の実現状況 要介護 2 以上の認定率、認定率の変 化率の状況はどのようになっている か。	ア 認定率 <					